

2

リデュースを題材にしたプログラムを作る

環境カウンセラー 浅野智恵美

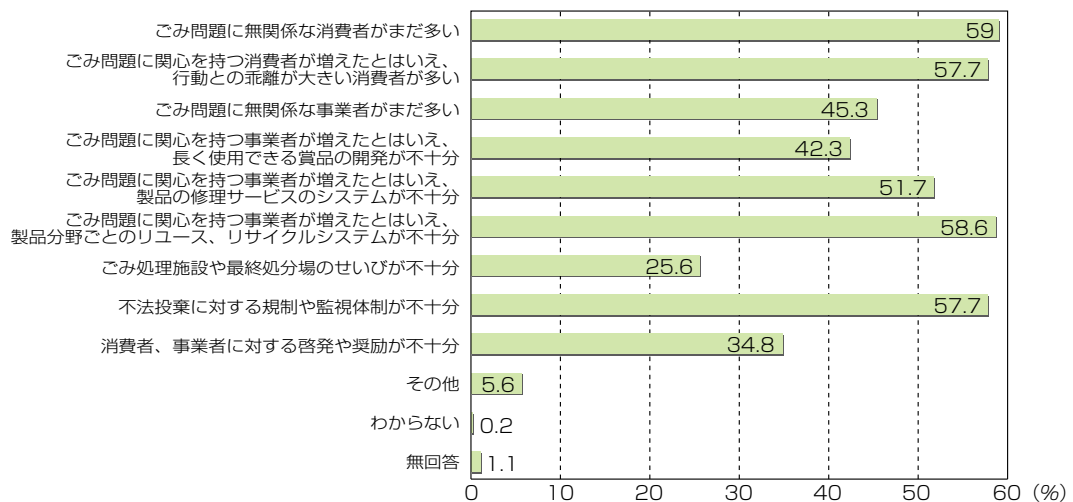
プログラム名	エコパーティーによろこそ！
参加対象	小学校低学年～大人
実施時間	エコパーティー：90分、プログラム全体：8～10時間程度
実施場所	室内
ねらい	3Rの取組の中で、リデュースを中心としたごみを減らす工夫が、第1であることに気づく。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ペットボトルや空き缶などの「リサイクル率当てクイズ」を行なう。 2 ペットボトルがリサイクルされていく工程を紹介する。 3 「リサイクル貧乏」という言葉の意味と、その背景を考える。 4 リサイクルよりも大切なことは何かを考える。 5 エコパーティーへの参加を通して、実生活を見つめ直す。 6 ごみの分別の仕方や、ちょっとした工夫で実践できるリデュース、リユースの具体例を紹介する。 7 今日からできる「エコ宣言」を各自が考え、発表する。

1 私たちのくらしの現状

豊富な資源を使い、過剰な消費と廃棄を伴う豊かな生活をおくることは、少なからず環境破壊につながります。日々の生活から出るごみは、環境問題の原因になり、その改善方法は簡単ではありません。

無造作に捨てられる廃棄物の中には、資源として活用できるものが少なくありません。家庭から廃棄されたものの行方を見ると、ペットボトルやビン、缶、紙に加え、家電製品、車なども解体され、資源としてリサイクルされ、姿を変えて再び活用されています。生活の中から出る廃棄物の多くは、有効な資源として再生利用できるのです。

ごみ問題の原因

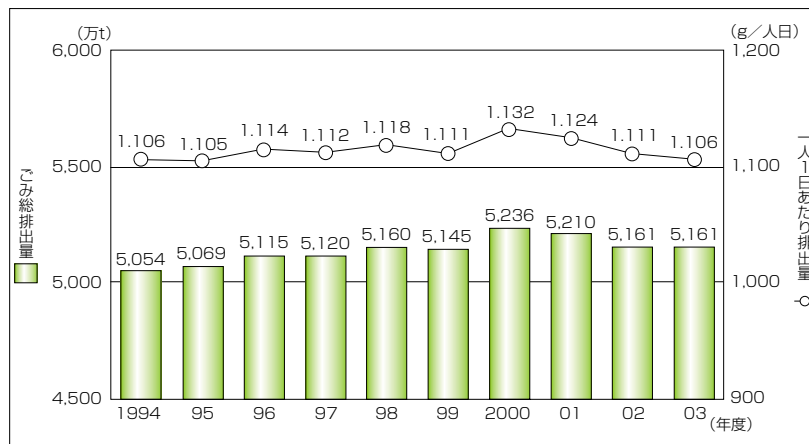


出典：内閣府「国民生活モニター調査」平成16年度

(1) ごみの排出量の現状

平成15年（2003年）度におけるごみの総排出量は、5,161万 t。一人1日あたりのごみの排出量は、1,106 gとなっています。このうち、生活系のごみが3,466万 tで、約67%を占めています。膨大な量のごみが、日々の暮らしの中から排出されている状況は、いまだ改善されていません。

ごみ排出量の推移



出典：環境省「一般廃棄物の排出および処理状況等」

(2) ごみ処理の限界

家庭から出る一般廃棄物は、①直接埋め立てられるもの、②焼却されるもの、③中間処理を経てリサイクルされ、再生利用されるものに大別されます。廃棄物の内容は、処理困難なものが増える傾向にあり、ごみ処理には多大な費用がかかっています。焼却処理による燃え残りや焼却灰などの焼却残渣は、最終的に埋め立て処分されます。一方で、山林や原野などへのごみの不法投棄が、各地で横行し社会問題になっています。

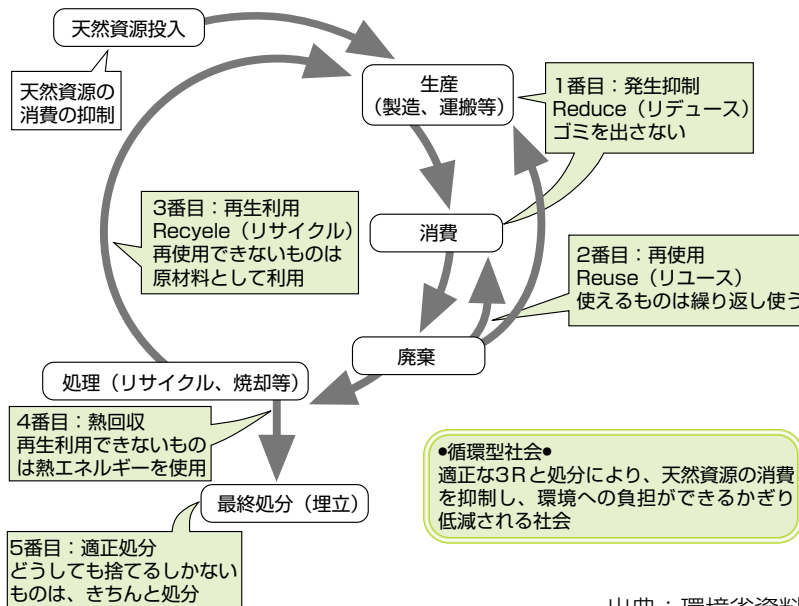
ごみ処理の最終段階は、最終処分場での埋め立てです。最終処分場の建設は、莫大な費用と、広大な土地が必要となるため、新しく確保することが非常に難しい状況にあります。最終処分場の残余容量は、毎年減り続けています。最終処分場の新規確保ができなければ、わたしたちの暮らしはどうなるのでしょうか？

2 リデュース、リユース、リサイクルの実践と、循環型社会の形成

大量生産、大量消費、大量廃棄の一方通行型の社会から、循環型社会への移行が求められている今、循環型社会に向けたごみ処理の優先順位が確立されています。環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、3R（スリーアール）があります。廃棄物はきちんと分別し、ごみを出す人が、廃棄物の処分やリサイクルに責任を持つ、排出者責任の考え方が重要です。

わたしたちが環境に配慮した生活をおくるための方法としては、「不要なものは買わない」「使う量を少なくする」「繰り返し大切に長く使う」「捨てる時は分別をしっかりとる」などがあげられます。ごみをなるべく出さない暮らし方の工夫が、大切です。

循環型社会に向けたごみ処理の優先順位



出典：環境省資料

- (1) リデュース (Reduce) ごみの発生を減らすこと。

不要になった物をどうするかを考える前に、不要になる物をなるべく減らすという考え方。たとえば必要以上の包装を断ったり、買い物のときマイバックを持っていく、洗剤やシャンプー・インスタントコーヒー・化粧品などは詰め替え商品を利用し、不要な物を買わないことなどです。省資源化や長寿命化といった取り組みを通じて、製品の製造、流通、使用などにおける資源利用効率を高めます。

- (2) リユース (Reuse) 一度利用した物をもう一度使用すること。

ビール瓶や牛乳瓶などを回収して洗い、繰り返し使われるリターナブル瓶などがそうです。制服や着なくなった服を欲しい人に譲り、再使用することもリユースです。工場や小売店へ資材や商品を納めるため、繰り返し使われる通い箱もその一例です。

- (3) リサイクル (Recycle) 不要になった物を他の製品の原料として再生利用すること。使用された製品や製造に伴い発生した副産物を回収し、原材料としてマテリアルリサイクルしたり、焼却熱のエネルギーとしてサーマルリサイクルしたりします。新聞や雑誌・牛乳パックなどの古紙を原料に再び紙をつくったり、ペットボトルを原料にして服などの繊維製品をつくったりすることが、これにあてはまります。リサイクルには多くのエネルギーと時間、労力、経費、技術開発へのたゆまぬ努力が必要となります。

3 プログラムの作成作業

- (1) ねらいをどこに置くか？

ほとんどの人がリサイクルという言葉を知っていますが、リデュースはまだ社会の中に充分浸透していません。ごみを減らすためには、ワンウェイ容器の利用を避ける、きちんと分けて再資源化することなどが重要です。ごみを資源としてとらえ、プラスチック製容器包装や紙類、生ごみを分別するなど具体的な行動を起こすことにより、好循環を生み出すことができます。では、ごみを減らすためにはどうしたらよいのでしょうか？

4 プログラムの進行

- (1) 暮らしの中から出る身近なものを利用し、クイズを取り入れながら考えていきます。
 - ① ペットボトルや缶などのリサイクル率当てクイズをします。
 - ② どうしても出てしまったペットボトルは、どのように捨てるとよいか説明します。
 - ③ 排出されたペットボトルが、いくつもの工程を経てリサイクルされていく様子を、イラストなどで表したパネルで説明します。
 - ④ ペットボトルの原型や、リサイクル過程のフレーク、ペレット、化学繊維の綿、それからできたTシャツなどを見せ、資源を再生利用することの大変さを示します。

この作業のポイント

排出されるペットボトルの量がどんどん増え、リサイクルをすればするほど、エネルギーや経費、労力、時間が余分に必要となり、環境に負荷がかかることに気づきます。

- (2) リサイクルより大切なことは何かを考え、グループで話し合います。
 - ① 環境問題に関する情報を参加者間で共有し、環境保全への意識を高めて行動に結びつける「ワークショップ」を取り入れることは、有効な手法です。
 - ② 個人の考えをワークシートに書き出します。
 - ③ グループ内で意見を出し合い、リサイクルより大切なことは何かを考えます。
 - ④ グループ単位で意見を発表し、全体の場で共有します。

ワークシート



リサイクルが一番いいこと？

リサイクルの仕組みがあるから、ごみはどんどん捨てていいのかな？考えてみよう！

名前 _____



- (3) 参加者がマイカップを持参し、ペットボトルの飲み物は出しません。
 - ① マイカップを持参したのはなぜでしょうか？
 - ② ペットボトル飲料ではなく、ポットやヤカンを利用して、紅茶などを用意したのはなぜでしょうか？
 - ③ エコパーティーの中で紙皿を使わなかったのは、なぜでしょうか？

この作業のポイント

一度使っただけで捨てる紙コップや紙皿などのワンウェイ容器と、繰り返し何度も使用できる陶器やガラス製食器の利用についてパーティーの中で比べ、実際に出るごみの量はどちらが多いか、また、どちらが環境にやさしいかを考えます。

(4) お菓子の袋や卵のパックなど、各自治体を実施しているプラスチック製容器包装の捨て方について考えます。分別排出された物がどのように活かされているかを紹介します。

- ① 各自治体によって、ごみの分別の仕方や捨て方などのルールをはじめ、使用するごみ袋の色や種類・制度が違うことを紹介します。
- ② 自分のまちは、どのような分別の仕方を取り入れているかをふりかえります。

この作業のポイント

プラスチック製容器包装を分別することにより、燃えるごみを減らすことができることに気づきます。分別されたプラスチック製容器包装は、エネルギー源やプラスチック素材など、資源として再生利用されていることを知ります。

(5) くだものの皮などの生ごみは、どのように処理をしたら環境にやさしい行動につながるかを、実物を手に取りながら考えます。

- ① バナナやミカンの皮は、燃えるでしょうか？
- ② 「燃えるごみ袋」に占める生ごみの量を紹介します。

この作業のポイント

水分を多く含んだ生ごみは、大変燃えにくいごみであることに気づきます。生ごみは、肥料として利用できる方法があることを考えます。

(6) チョコレートやティッシュの空き箱は、どのように分別すると、もう一度資源として活かすことができるかを考えます。

- ① チョコレートの空き箱は、ごみでしょうか？それとも資源でしょうか？
- ② 身のまわりに、そのほかに資源として活かせる物は何があるでしょうか？

この作業のポイント

分別をしっかりとすると、燃えるごみの量を減らすことができることに気づきます。

(7) ごみを減らすヒントを、パーティーの中で実物を使って紹介します。

- ① マイバックやマイ箸、マイカップを見せ、その活用方法と利点を話し合います。
- ② テーブルクロスは、ベッドカバーやカーテンを再利用したことを種明かしします。他にどんな物がリユースできるかを考えます。
- ③ ザルと不織布をお皿として使用したことを紹介します。このことにより、エコパーティーの中でどんな環境配慮が実践できたかを問いかけます。
- ④ 詰め替え商品を見せ、ほかにどのような物が詰め替え商品として、各家庭の中で使われているか、その利用方法を振り返ります。
- ⑤ 大切に長年使っている物を見せ、この行動とごみ削減の関係を考えます。

この作業のポイント

ごみを減らすための取り組みは、子どもから大人まで、日々のくらしを形成する一人ひとりが主役であることに気づきます。

- (8) リデュース：わたしの「エコ宣言」を仕上げます。
今日からやってみよう、ごみをへらす取り組みをワークシートに書き出します。
それを全体の場で発表し、わたしのエコ宣言とします。

ワークシート



リデュース：ごみをへらすために！
ほく・わたしの **エコ宣言！**
名前 _____



この作業のポイント

暮らしの中にエコライフを取り入れ、今私たちにできることから始めることが大切です。日常生活を見直し、ごみを出さない暮らし方で賢い生活者へ変わることは、生活の質を高めます。また、エコパーティーで気づいたことを、家族や地域の中に広めていく“先生”の役割を担うことが、大切であることを紹介します。

5 まとめ

(1) 地球温暖化防止とのつながりについて

ごみの発生抑制を推進し、解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、行動することが重要です。地域社会と連携し、コミュニケーションを図ることで、改善に向け前進することができます。ごみの発生抑制は、最終的に、地球温暖化防止につながります。温室効果ガス排出量増加の現在のトレンドを変えるには、直接的な排出者である個人や組織の意識変革に訴え、日常の暮らし全般に省エネやエコライフ行動を推奨することが、非常に大切です。環境社会を実現していくためには、地域社会を構成するすべての主体による積極的な関与と、すべての主体の協働により、実践していく力が必要不可欠です。

(2) 今後の方向性

環境問題は、人類が直面する重要な課題です。どんな暮らし方を選択するか、環境問題にどう立ち向かうかで、環境保全の取組に違いがでます。一方で、現世代のついでを、将来世代に払わせてはならないという考え方があります。持続可能な社会のためのアプローチとして、リデュースの実践とともに、エネルギーと私たちのくらしのあり方を見つめ直す省エネの取り組みや、環境に配慮した持続可能な交通社会のあり方を考えて、実践していくことが重要です。